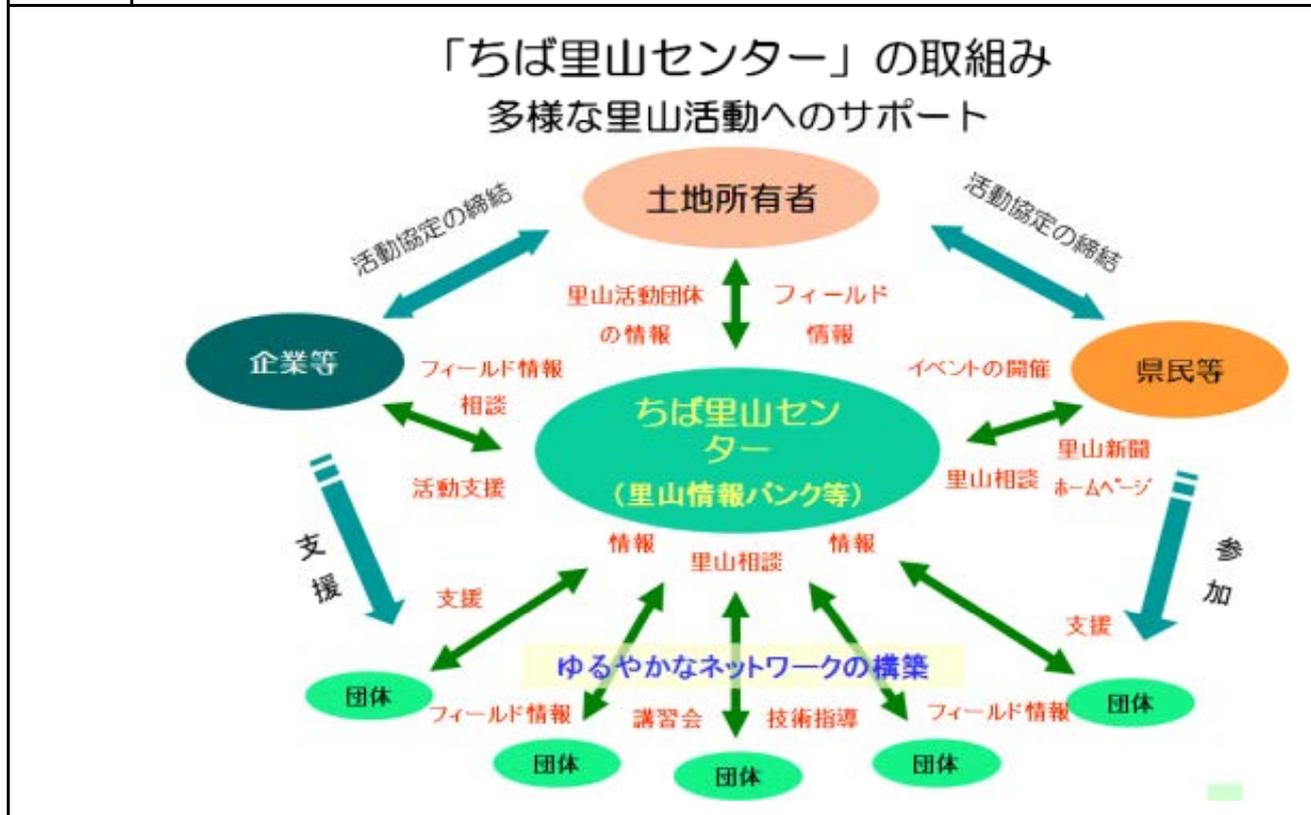


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取組基盤の整備)広域的な枠組みの整備
手法名	「ちば里山センター」 里山保全のための中間支援組織づくり
主体	千葉県
背景 (地域の課題)	首都圏に位置する千葉県は、丘陵と谷津田を中心とする里地里山地域が多いが、都市化の進展や第1次産業の後継者の高齢化等に伴い、管理放棄された谷津田等が不法投棄の場所となるなどの問題を抱える一方、都市住民を中心に里地里山保全活動の機運も高まっている。里地里山の多くは私有地であることから、思いはあっても活動は自由に行えないことも多い。そのため、地権者や農家活動に意欲ある県民などが、里地里山保全のために取り組みたいと希望する際に、その受け皿となり活動促進を支援する機関が必要であった。
手法/方策の詳細	「千葉県里山の保全、整備及び活用の促進に関する条例」の目的を実現するために、県内の里山活動団体が集まり「ちば里山センター」を設立し、里山活動団体の中間支援組織として活動しており、県と連携することで総合窓口業務等の機能を担っている。 「里山情報バンク」として、土地所有者、活動団体、県民、企業等からの情報を集約し、相談があれば、フィールド紹介や活動団体の照会を行い、活動協定締結のサポートを行う。 また、活動団体等を対象に、技術指導や講演会みの企画実施、県民が参加できる活動の情報発信等を行っている。 組織設立時は千葉県がリードしたが、センター機能が確立するにつれて自立した企画運営に移行しており、平成22年3月にNPO法人化。千葉県は側面的な支援により同センターをバックアップする。
手法・技術的視点	当初は行政主導で設置された組織だが、参加団体が増えるにつれて民間主体の運営体制となり、活動団体等が主体的にとりくむためのプラットフォームとなっている。



参考資料	里なび研修会in東京 千葉県農林水産部森林課森林政策室副主幹 西野文智
------	-------------------------------------